

平成27年度 第1回 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 次第

日 時 平成27年6月1日（月）

15:30～16:30

場 所 本庁舎4階政策会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 成長・発展プラン（H24～H26）の達成状況と成長・発展プラン（H27～）について

(2) 成長・発展プラン（H27～）の更なる強化について

4 閉 会

議事(1)

浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン(H24～H26)の達成状況
と成長・発展プラン(H27～)について

■浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン(H24～H26)の達成状況

・中間年度である平成26年度の実績から見る達成状況

地区	評価指標	基準値 (H23年度)	H25年度 実績	H26年度 実績	概ね5年後の 目標値 (H29年度目標値)	評価	
浦和美園駅周辺	定住人口	4,135人	約5,000人	5,566人 (H26目標値 5,100人)	約4千人超増 (約8.1千人)	○土地区画整理事業の進展、景気回復等により現時点の目標値を達成	
	交流人口	商業・業務 施設来訪者	—	施設誘致推進中		約8千人 /日超増	○大型電機店がオープンするなど企業の進出意向は高い (一方、企業が希望する規模のまとまりのある用地が限られている)
		教育施設 学生	—	施設誘致推進中		約1千人 /日超増	○順天堂大学・大学院の設置予定 ○新規の施設誘致を引き続き推進する
		イベント 開催	約424千人	約339千人	約399千人	年約30千人超増 (約454千人)	○埼スタでの高校サッカー開催やSRのイベント増強を図る
		スポーツ 振興	約29千人	約34千人	約35千人	1試合あたり 約13千人超増 (約42千人)	○サッカー観客数を過去の平均観客動員数を約42千人/試合を目指す
岩槻駅周辺	交流人口	観光機能 拠点	—	拠点施設事業推進中		約70千人超増	○旧岩槻区役所敷地における集客力の高い観光拠点施設計画の推進
		イベント 開催	約451千人	約459千人	約504千人	約30千人超増 (約481千人)	○既に概ね5年後の目標値を達成 ○魅力あるイベントを検討・開催する

■成長・発展プラン(H27～)の概要

※【赤字】は新規事業

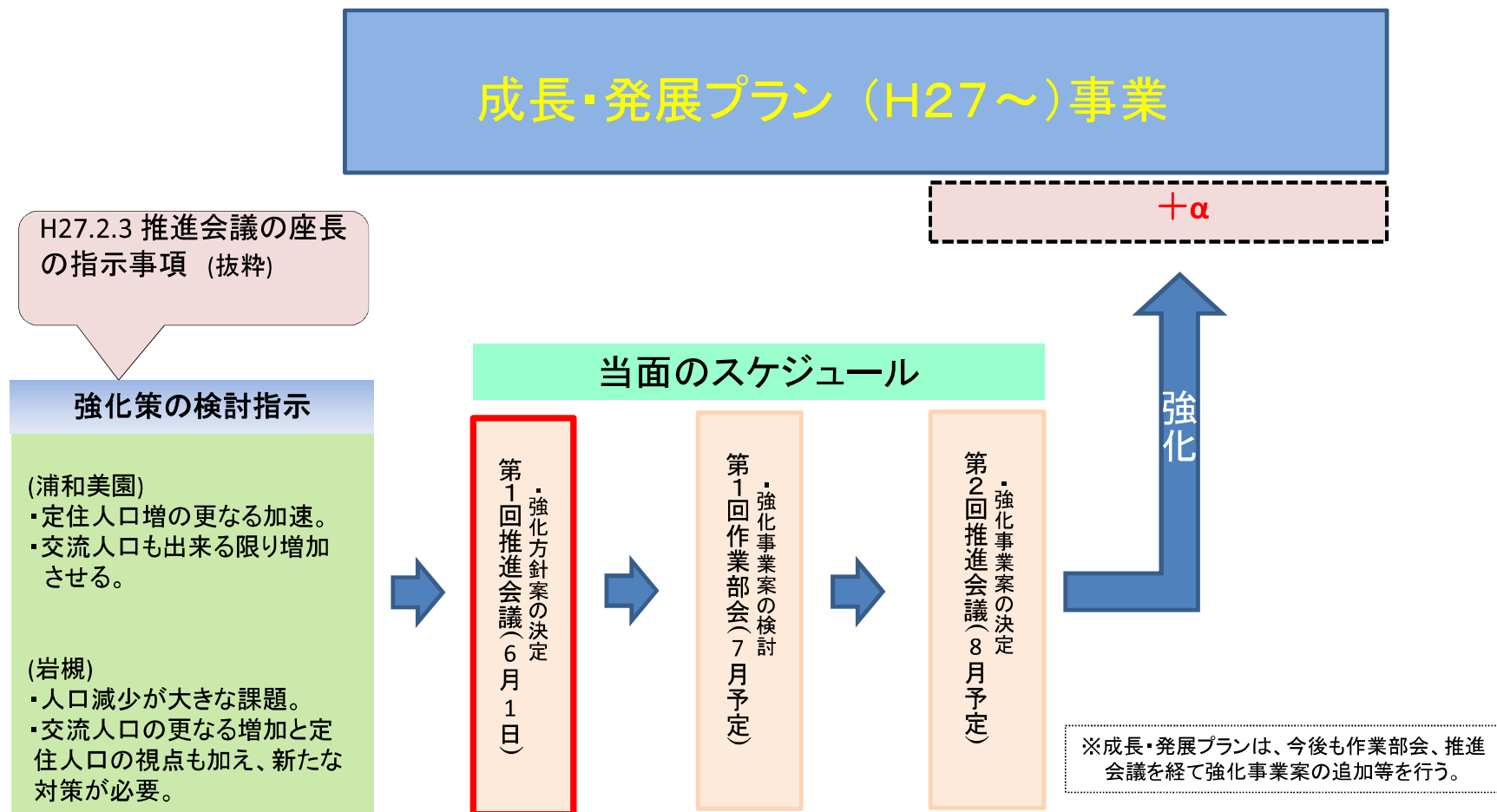


議事(2)

浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン(H27～)の更なる強化

■成長・発展プラン(H27～)事業の更なる強化

【成長・発展プラン(H27～)の強化に向けたアプローチ】



浦和美園駅周辺地区のまちづくり強化案

1. 浦和美園駅周辺地区の本市における位置付け

○総合振興計画

- ・副都心として位置付けされる

○都市計画マスタープランにおける位置付け

- ・スポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマとするまちづくりの推進

2. 浦和美園駅周辺地区の課題

- ・定住人口増の更なる加速
- ・交流人口の増加

3. 浦和美園駅周辺地区のまちづくり強化

まちづくり強化案

1. 定住人口増に向けた強化方針

○既存事業の更なる加速

- ・都市基盤の整備(保留地処分を促進)
- ・(仮称)アーバンデザインセンターみそのによるブランド化(美園地区の付加価値向上)
- ・子育て支援機能の整備(認可保育所、小学校、中学校の充実)

2. 交流人口増に向けた強化方針

○新規事業による強化

- ・関係部局、関係機関等と連携した施設誘致の実現
※美園地区を中心に浦和美園～岩槻地域全域で誘致を検討
- ・SR等の民間企業と連携したイベントの実施

岩槻駅周辺地区のまちづくり強化案

1. 岩槻駅周辺地区の本市における位置付け

○総合振興計画

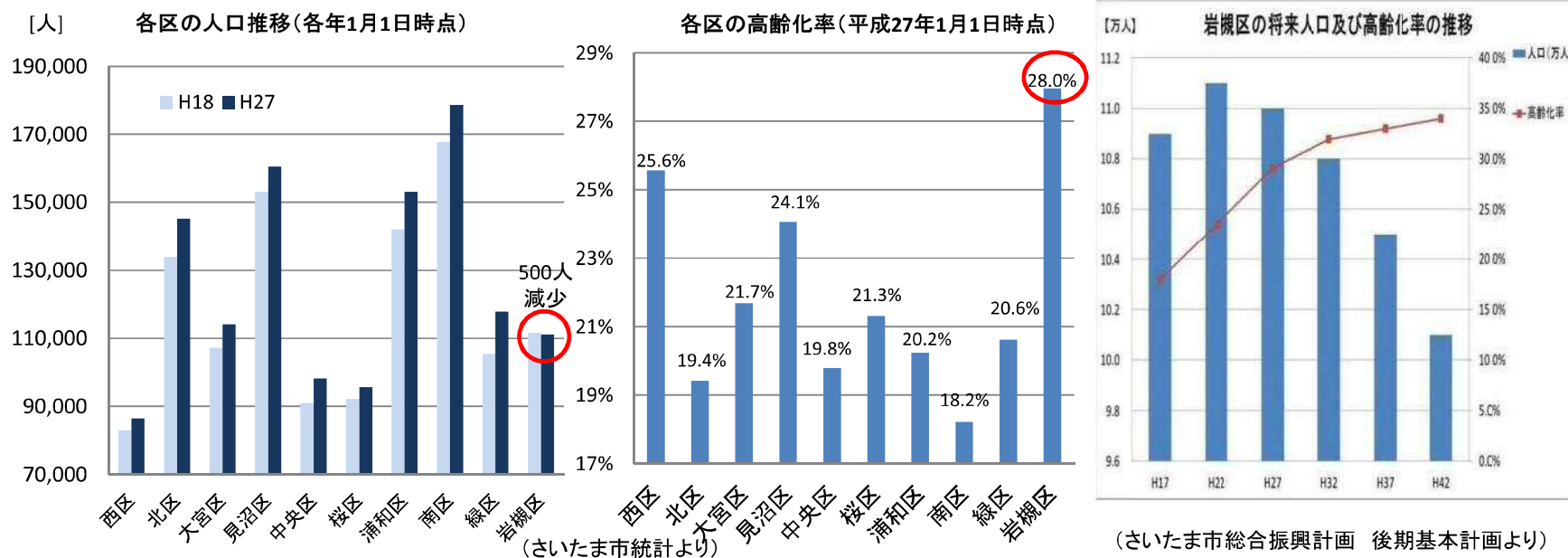
- ・将来都市構造における4副都心の一つ
- ・「歴史と伝統の地域資源を生かし、自然環境と調和を図り文化・交流機能の充実を進める」特色ある拠点の形成

○都市計画マスタープラン、岩槻まちづくりマスタープランにおける位置付け

- ・歴史・文化のまちづくりを推進するとともに、業務・行政・文化交流・居住などの都市機能集積を図る

2. 岩槻駅周辺地区の課題

- ・副都心として位置付けされるも10区の中で岩槻区のみ早くも人口減少(H18年～H27年で約500人減少)
- ・高齢化率も急速に上昇し都市活力が低下しつつある



3. 「副都心 岩槻駅周辺地区」の人口減少、高齢化への対応

- ・本市の人口は、平成37年をピークに人口減少が到来
- ・人口が減少する前の5～10年間における対策が重要



このような状況の中、岩槻区では早くも人口減少がはじまり、高齢化率も高くなっている



このままでは、副都心としてのまちの活力が低下



居住者や来訪者が魅力を感じるような、岩槻の特性を生かした持続可能なまちづくりが必要



副都心『岩槻』としてのまちづくりの強化

人口減少・高齢化に対応する

多様な都市活動を支える都市機能を備える副都心に相応しいまちづくりを
地域の特性を活かしながら進めていく

4. 副都心としてのまちづくり強化

強み

- ・歴史・文化資源
- ・人形のまち岩槻の知名度
- ・自然環境や都市公園

弱み

- ・中心市街地の商業機能の低下
- ・公共交通機関の利便性の低さ

※その他 追い風要素

- 東京オリンピック、世界盆栽大会
- 企業進出意欲の高まり
- 地方分権を目指した農地転用規制緩和

まちづくり強化案

1. 交流人口増に向けた強化方針

①既存事業の更なる加速・改善

- ・旧岩槻区役所敷地の活用・賑わい創出(仮称人形会館+観光機能による交流促進)
- ・回遊性を高めるための環境整備促進(岩槻歴史街道、時の鐘周辺整備、案内表示、休憩所、トイレ等)
- ・既存イベントの改善(同日開催等の集約、PR強化等によるイベント参加者の拡大)

②新規事業による強化

- ・外国人観光客に対応した方策の追加(多言語標記、PR拡充)
- ・関係部局、関係機関等と連携した施設誘致の検討
※岩槻IC周辺、中間駅周辺等についても可能性検討

2. 定住人口維持に向けた強化方針

①既存事業の着実な推進

- ・都市基盤の整備(P15参照)

②新規事業による強化

- ・コンパクトシティに向けた計画的誘導(立地適正化計画策定)
- ・定住化に向けたインセンティブ(民間融資等)

平成 27 年度 第 1 回浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 議事概要

1. 日 時：平成 27 年 6 月 1 日（月） 15：30～16：30
2. 会 場：さいたま市役所 4 階 政策会議室
3. 出席者：（座長）清水市長、（副座長）木下副市長、遠藤副市長、本間副市長
（委員）技監、都市戦略本部長、都市戦略本部理事、財政局長、スポーツ文化局長、環境局長、経済局長、都市局長、建設局長、見沼区長、緑区長、岩槻区長

4. 議事概要

（1）あいさつ（座長）

- ・「みそのウイングシティ」では、都市基盤整備が進み定住人口が順調に増加してきており、「成長・発展プラン」の成果だと感じている。
- ・「成長・発展プラン」の実現は、浦和美園～岩槻地域の成長、発展のみだけでなく、さいたま市全体の価値を高めるもので大変重要である。
- ・本市の人口は、平成 37 年をピークにその後は減少することが推計されている。更に定住・交流人口を増やし、まちの活力を維持、発展させることが重要である。

（2）事務局説明

- ・「成長・発展プラン（H24～H26）」の達成状況と成長・発展プラン（H27～）について及び「成長・発展プラン（H27～）の更なる強化」について

（3）議事に入る前の座長発言

- 浦和美園については、定住人口が順調に伸びており順調な流れを加速させたい。交流人口もできる限り増加を図る必要があり、全庁挙げて取り組んでほしい。
- 岩槻については、人口が減少傾向にあり、大きな課題となっている。副都心のあり方をイメージし、交流人口の更なる増加と定住人口の視点も加え、新たな方策が必要である。
- 本日は、時間も限られており、特に岩槻の副都心に相応しいまちづくりについて優先的に議論していただきたい。

（4）議事に関する意見交換（委員等の発言）

■岩槻駅周辺のまちづくりについて

- ・岩槻駅舎改修事業については、28 年 6 月に岩槻駅西口開設予定、28 年度中に観光案内所も含めて駅舎が完成予定。
- ・岩槻駅西口土地区画整理事業は、26 年度末で進捗率 72%となっている。
- ・現在、西口開設に合わせて駅前広場やそのアプローチの仕方などを調整している。

民有地のビルドアップを促進していくためにも、土地活用に関しては、各種制度などまちづくり事務所でご案内していきたい。

- ・岩槻歴史街道の整備については、26年度にワークショップを5回行った。裏小路は、参加者とイメージを共有している。歴史街道が駅と（仮称）人形会館を結ぶアクセス道路になるので、今年度は「時の鐘」等も含め具現化していきたい。
- ・江川土地区画整理事業は進捗率94%で順調に進んでいる。
- ・今年度は区誕生10周年ということで、既存事業である岩槻まつりや岩槻鷹狩り行列等のイベント規模の拡大を図っていく。PRも区内外に積極的に発信していく。
- ・新規事業では、11月上旬に「岩槻食のさい10」を開催する予定である。
- ・また、今年度は、区内の観光スポットを自転車で巡る観光ルートを設定し、新たな観光客層の開拓を図りたい。また、今年度はトリエンナーレのプレイベントとして、元荒川で市民向けの乗船体験とワークショップが実施される予定である。
- ・今後はトリエンナーレ、世界盆栽大会、オリンピック等大きなイベントが続く。外国人観光客を受け入れるためにも、案内板などの多言語標記について本庁関係所管課と連携して行っていきたい。
- ・28年度に完成予定の岩槻駅舎内に観光案内所が設置され、（仮称）人形会館もオリンピックに向け完成が待たれるところであり、こうした新たな観光拠点施設が整備されると、岩槻の交流人口は更に増加するものと考えております。
- ・岩槻の定住人口を減らさない取り組みが必要である。そのため、基盤整備については、岩槻駅前、その他の区画整理事業を行い、定住に資するようなイベントを継続的に行っていくことが重要である。
- ・岩槻区は同じ市内とはいえ距離感がある。東武野田線沿線の七里・大和田等の区画整理が進捗すると、大宮と岩槻の距離感が近くなり、定住にも寄与するのではないか。
- ・都市再生特別措置法の改正で新たにできた立地適正化計画は、この計画を作ることによって、マスタープランレベルで都市機能の誘導地域、居住誘導地域ができると、予算・税で支援する仕組みになっている。ただし、当市はエリアも大きく人口も増えており、この誘導地域をどのように設定するか都市局で議論している最中である。岩槻にもあてはめられればと考えている。
- ・立地適正化計画は、当初、都市部では馴染まないとの考えであった。しかし、国としては重点的に必要なものに補助金を配分していくと言っているので、今年度さいたま市でも方針を出す考えである。
現段階でさいたま市の都市構造はコンパクトになっており、特に岩槻は市街化区域が駅を中心に限定的になっている。岩槻をモデルケースとして扱うことも考えている。いずれにしても、今年度中に全体を整理する中で、岩槻のことを考えていきたい。
- ・賑わいを創出するためには、若者の視点に立って検討する必要がある。例えば、

(仮称)人形会館をデザイン性に優れたものにするなど、思い切った手を打たないと若者の関心はよべないと感じている。また、子育てや教育にも優れているといった優れたものがないと若者も定住しないと感じている。こういったことを真面目に考えていく必要がある。

- ・28年度に武蔵浦和から中浦和、大宮地区、岩槻地区でトリエンナーレが開催される。岩槻区と連携を図りながら準備を進め、現代アートと人形文化がうまく融合することで岩槻区の交流人口等を増加させたい。

■浦和美園駅周辺のまちづくりについて

- ・浦和美園駅周辺の区画整理は、UR・市施行エリアともに順調に進んでおり、UR施行地区はあと2、3年で完全に基盤整備が終わる予定。これからはその上に展開する都市機能の立地について、全庁的な支援が必要である。例えば、近くに商業施設がある、学校が充実している、待機児童がない、小児科が充実しているなど、若い世代の方に来ていただけるような売りの部分がこれから必要であると考える。
- ・スマートホーム・コミュニティは、コンペに応募があった3者に順位付けし、現在は第1位と協議を行っているところである。
- ・UDCMについては、浦和美園駅西口の私有施設のフロアの一部を5月に賃貸契約した。今後内装工事等を行い、10月頃の開設を目指している。現在、中心となる共通プラットホームのさいたま版の発注について調達課等と調整している。

(5) 座長より会議の総括

- 議事資料にある浦和美園と岩槻のまちづくり強化案については、今はまだ方針のレベルであるものを、次回の推進会議までに具体的な事業として提案できるよう検討すること。
- 局長、区長については、所管の作業部会委員に検討をスタートするよう指示をお願いする。

【事務局】都市戦略本部 東部地域・鉄道戦略部